



をきっかけに再確認されたという事案だった訳です。鉄道の復旧に行政として携わっていますが、単なる鉄道の復旧だけではなく、津市は水路事業を、三重県は治山事業を行っている訳です。それらは名松線の復旧関連事業と位置付けられていますが、我々はこの村落を守っていくためのインフラ整備をしっかりと行っていくことが必要だと感じております。

三浦 美杉が持つ山という財産、そこにきれいな木が生え、それが水を守ることにつながっていると思います。先ほど、周辺を少し散歩したのですが、きれいに枝が落とされたスギの木を見て、このようにして木を守っていくことが、この美杉の生活を支えているのだと思いますね。

市長 旧美杉村時代は、過疎地域の振興ということで、たくさんの皆さんに美杉に来ていただこうと、例えばスカイランドおおぼらやフットパーク美杉などの大きな施設が造られました。ふるさと創生といわれていたころのことです。しかしながら、高齢化が進む中、合併後は特に人々の生活に焦点を当てた取り組みを行っています。その一つは美杉総合文化センターの整備です。これは古くなった小規模のホールを、300人収容可能な文化ホールに建て替えたものです。同時に、以前から課題であった矢頭トンネルを、現在三重県と一緒に造っている

ところですが、これは美杉町下之川に建設中の最終処分場のアクセス道路という意味があります。これからの地域振興という点では、人々の暮らし、そして当然高齢者の皆さんの福祉にもっともっと着目していかなければならないと思います。

三浦 特に遠野物語を対象として研究していることもあって、地方を歩くことが多いのですが、その土地の中でどうやって自分たちがそこに住むことに対するアイデンティティを見出していけるかという点が大事だと思います。自分たちが誇りを持てる、心豊かな暮らしをつくっていくことを、第一に考える必要があるのだろうといつも思っています。これから日本の人口が増えて発展することは考えられない訳ですから、そういう時代に例えば50年先にどのような共同体をつくっていくのかということが見通せるとうれいすね。

市長 心豊かな暮らしという意味では、美杉では、自宅近くに農地を持ち、そこで自家用作物を作っている人も多いのですが、そこにもシカなどの野生獣が田畑に入り込み、一夜にして食い尽くすといった獣害がとても多くなっています。津市では、現在1億円の予算をかけて全市域の獣害対策に取り組んでいるのですが、4千万円の被害額が惜しくてやるというよりも、生活の場で発生している重大な問題ですから、市民の暮らしの場と農地を守るために必要だと考えてやっております。



三浦 決して効率的なことではないとしても、そういう風に捉える視点は、まちに住